

令和3年度
第11期事業年度

事 業 報 告

令和3年4月1日から
令和4年3月31日まで

公益財団法人 日本ユニフォームセンター

<目 次>

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
--------------------------------------	---

<事業概要>

(1) ユニフォームに関する思想の普及、啓発事業・・・・・・・・	3
----------------------------------	---

I. 情報誌の発行とホームページの運営

1. 情報誌の発行
2. ホームページの運営（インターネットを通じた情報公開）

II. シンポジウム、セミナー、展示会ショーの開催

1. 定期セミナーの開催
2. 「反射材フェア2021 LIVE」に協力
3. 2021年度 日本万国博覧会記念基金助成事業

SDGs へ貢献する学生交流・学習企画の実施

III. 人材・専門家の育成

1. ユニフォーム資格認定制度とは

IV. 国内外諸団体との連携

1. 国内諸団体
2. 海外諸団体

(2) ユニフォームに関する調査、資料収集、研究開発事業・・・・・・・・	11
--------------------------------------	----

I. ユニフォームに関連する調査、資料収集

1. 調査
2. 資料収集
3. 受託調査

II. 研究開発

1. ユニフォームの研究・開発

■公益事業の基本的「ユニフォーム調査・研究・開発事業」要件

①自主研究開発

②受託研究開発

Ⅲ. 基礎研究助成

1. 基礎研究助成の目的

2. 令和3年度の公募テーマ及び選考について

(3) ユニフォームに関する診断、相談、助言事業・・・・・・・・・・ 2 2

I. 診断・相談・助言

II. 監修・指導

(4) ユニフォームに関する知的財産権の提供事業・・・・・・・・・・ 2 3

(5) ユニフォームに関する物品の斡旋事業・・・・・・・・・・ 2 3

(6) ユニフォームに関する特定団体・企業などへのデザインの提供・診断・監修
・・・・・・・・・・ 2 4

< 管理部門 >

会 議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 5

I. 理事会

II. 評議員会

III. 評議員選定委員会

会 員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 6

役 員 等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 7

I. 構成

1. 理 事 (役員)

2. 監 事 (役員)

3. 顧 問

4. 評 議 員 (役員)

5. 専 門 委 員

事業報告の附属明細書	30
------------	----

はじめに

弊法人は昭和 37 年発足以来「ユニフォームの改善・改良そしてその普及活動」に努め衣服文化に貢献してまいりました。

平成 23 年には、公益財団法人の認定を受け、公益財団法人日本ユニフォームセンターと改称し、新しくスタートいたしました。公益認定を契機に改めて、運営基本方針として「CSR の厳格推進」を挙げ、公益財団法人としての社会の期待に応えるべく、(定款 第 3 条：目的)「ユニフォームの改善改良とその思想の普及、啓発活動を行い、ユニフォーム文化の振興、勤労者の福祉の向上、並びに学生及びスポーツをする者の心身の健全な発達に寄与する」ことを目的とし、衣服文化に貢献してまいります。

公益財団法人としての 11 期目は、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の中、上記目的達成のための公益事業は WEB・リモートを活用し定期セミナー/ユニフォーム資格認定制度講習会/UAE と日本の学生に向けたドバイ万博のユニフォームに関する講義及び学生同士の交流等に取り組みました。又、理事会等の会議開催においても実際の開催に加え、WEB で開催いたしました。

不特定多数の人々の利益となることを要件とした公益事業は継続事業に加え、ユニフォーム関連分野での新型コロナ感染症対策事業に取り組み成果を上げました。具体的には新型コロナ感染症対策とした「ユニフォームマスク等」研究と、昨年度に実施した企業団体の「コロナ禍におけるユニフォームへの対応」の研究・調査の結果を働く人の福祉向上のためのユニフォーム関連等の開発に生かし、より一層の社会貢献を目指した事業活動に取り組みました。また、法人運営では WEB 会議を活用することで定款規程とおりの会議を実施し、コンプライアンス厳守の法人運営を推進することが出来ました。

全体事業概要について

弊法人では、定款第 3 条に定める目的を達成するために、定款第 4 条の通り、以下の事業を柱として活動しております。

(定款 第 4 条：事業)

- (1) ユニフォームに関する思想の普及、啓発事業
- (2) ユニフォームに関する調査、資料収集、研究開発事業
- (3) ユニフォームに関する診断、相談、助言事業
- (4) ユニフォームに関する知的財産権の提供事業
- (5) ユニフォームに関する物品の斡旋事業

(6) ユニフォームに関する特定団体・企業などへのデザインの提供

(7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

以上の事業は夫々有機的に関連し、また補完する関係です。それぞれの事業を推進することで相互作用が発生し、有意義な公益活動に結びついています。

公益事業（1）～（3）について

(1) ユニフォームに関する思想の普及、啓発事業として、社会に役立つユニフォーム関連情報の受発信と情報公開を、情報誌やホームページなどを活用して行いました。

また、セミナー、資格認定制度による人材育成、諸団体との協業でユニフォームの効果効用の普及活動を行っております。

(2) ユニフォームに関する調査、資料収集、研究開発事業としては、ユニフォームに関わる意識調査として本年度は「ユニフォームにおける SDGs への意識」、夜間の視認性に優れた反射材ウェア、防犯・防災・安全に繋がるセキュリティウェア、宇宙技術を応用するなどした熱中症対策ウェア、保冷剤を使用した熱中症対策ウェアの研究開発等、幅広いユニフォーム分野での社会貢献をめざし活動いたしました。

(3) ユニフォームに関する診断、相談、助言事業としては、弊法人が培ったノウハウを社会に還元する為、積極的にユニフォームに関わる様々な問題にお応えする診断、相談、助言をホームページ・面談などで実施いたしました。

その他、全体事業概要（4）～（6）の公益事業を活性化するための収益事業の活動を行いました。

以下 令和3年度における事業活動について具体的に報告します。

(1) ユニフォームに関する思想の普及、啓発事業

I. 情報誌の発行とホームページの運営

1. 情報誌の発行

日本で最初のユニフォーム情報誌『ザ・ユニフォーム』を発行。新しいユニフォームの紹介や各種研究成果・調査報告、セミナー・発表会・展示会を通じユニフォームに関わる最新技術・統計・データなどを取材し掲載しました。

発行部数は約 2,000 部で、ユニフォームを着る側・購入する側・作る側及び大学、関係団体、個人、全国の公立図書館などに頒布し、誌面を通してユニフォームの効果効用の普及活動を行いました。今期からは季刊化し 591 号～第 594 号を発行しました。

<掲載された主な内容>

- ① 「NUC役員・会員インタビュー」
・・・ 591～593号掲載
- ② 「展示会情報等」・・・ 591～594号掲載
- ③ 「NUC定期セミナー」・・・ 592, 594号掲載
- ④ 「ユニフォーム市場動向」・・・ 593号掲載
- ⑤ NUC意識調査「コロナ禍におけるユニフォームへの対応」報告書・・・ 591, 593号掲載
- ⑥ NUC事業活動報告
神奈川中央交通・・・ 591号掲載
アサヒファシリティズ・・・ 592号掲載
東京 2020 大会セキュリティユニフォーム・・・ 593号掲載
2020年ドバイ国際博覧会 各国ユニフォーム フォトレポート・・・ 594号掲載



情報誌『ザ・ユニフォーム』

2. ホームページの運営（インターネットを通じた情報公開）

弊法人の各種情報の公開と最新活動内容の紹介として、ユニフォームに関する調査結果、研究開発成果、各種資料等の情報を随時更新し、積極的に発信しました。

また、ウェブサイトを経由してのユニフォームに関する諸問題への無料相談を受け、各相談に真摯に対応し、ユニフォームの質的向上、改善に努めました。さらに、ユニフォーム最先端素材資料をまとめ、日本のメーカーが持つ最先端の技術を駆使した素材情報を広く提供いたしました。



NUCホームページ

3. 書籍の監修

SBクリエイティブが出版する“デジタルイラストの「働く制服」作画事典 キャラクターが映える職業服・ユニフォーム 100”の監修を行いました。

(著者:ジェネット/監修:日本ユニフォームセンター/出版社:S Bクリエイティブ)2022年4月12日発行



II. シンポジウム、セミナー、展示会ショーの開催

ユニフォームに関連する最新情報と、ユニフォームの役割や必要性、さらにその「効果効用」を普及啓発するために、ユニフォームを取り巻く現状調査報告や意見交換の場として、定期的なセミナーの開催やユニフォームに関連する各種展示会に出展し、ユニフォームの普及活動につとめました。

1. 定期セミナーの開催

会員並びに広く一般を対象に、「NUC 定期セミナー」を開催しました。セミナーはユニフォームの専門知識の習得、さらには社会の幅広い分野からユニフォームに関連する知識を提供することで、受講者がユニフォームの現状・最新情報・今後の発展等を学び、見識を深めることを目的としています。



第1回「ユニフォームにおける SDGs の取り組みについて」

今期のセミナーは、総受講者数は43名、平成25年度からの受講者総合計は1059名となりました。

今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、WEBセミナー形式で実施しました。お申し込みいただいた皆様には、当日の配信に加え、動画共有サービス Youtube にてセミナーの内容を公開しました。

今期は下記の要項で全2回開催しました。1回あたりの平均受講者数は20人です。

令和3年度 <定期セミナーの概要>

1	令和3年 10月20日 (水)	「ユニフォームにおける SDGs の取り組みについて」 講 師：株式会社チクマ 環境推進室環境プロジェクト担当 中村 尚弘氏
	概要：2030年のSDGs目標達成に向けて、全世界の現状と日本での取り組みについて、クイズ形式を用いて分かりやすく解説いただきました。また、リサイクルシステムを活用した自社の取り組みについてもご紹介いただきました。	
2	令和4年 2月17日 (木)	「自動採寸技術の活用事例と今後の展開について」 講 師：Bodygram Japan 株式会社 ビジネスディベロップメント 春川 美波氏
	概要：SDGs達成に向けた過剰在庫や廃棄の削減、また、コロナ禍における非接触をキーワードに注目を集める自動採寸について Bodygram App のユニフォーム業界での活用事例と今後の展開についてご紹介いただきました。	

2. 「反射材フェア2021 LIVE」に協力

(一財) 全日本交通安全協会・反射材活用推進委員会が主催する《着けよう反射材!! 防ごう夜間の交通事故「反射材フェア2021 LIVE」》

に協力しました。今回も昨年に続き、コロナ禍での開催ということで、ライブ配信及び動画サイトでのアーカイブ配信となりました。「反射材オンラインセミナー2021」などの多くのプログラムで構成され、さまざまな反射材製品のバリエーションや使い方、効果などについて紹介されました。



反射材フェア2021 LIVE

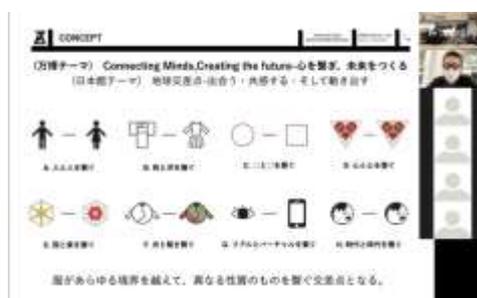
3. 2021 年度日本万国博覧会記念基金助成事業 SDGs へ貢献する学生交流・学習企画の実施

『ドバイ万博のユニフォームで「つながる」未来のファッション業界と万博へ向けた 学生国際交流プログラム』を実施しました。

ファッション業界を志す日本とドバイの学生に向けて、ドバイ万博日本館の公式 UF を手掛けた森永邦彦デザイナーによる講義をおこなうとともに、および実際に使用される UF 生地を活用した制作・交流をはかるプログラムです。

① 森永邦彦デザイナー (ANREALAGE) 及び日本ユニフォームセンター事務局による講義

ドバイと日本の両国をつなぐユニフォームに込めたメッセージと万博理念、ユニフォーム制作の過程、ファッション業界の課題として SDGs への貢献に関する想いについてなどをオンラインで講演しました。



② 小作品作製 上記の通りゴミとして捨てられてしまう予定であったドバイ万博日本館 UF の

端材を活用し、参加する服飾専門学生が自由に小作品を作製しました。製作の過程では、両国の学生がデザイン画を発表するなど交流する、オンライン交流会を実施しました。



【製作された学生作品の一部】



③ ドバイ万博ユニフォームレポート

ドバイ現地人員による調査にてドバイ万博の会場にて各出展国のUFを調査、レポートにまとめ、ドバイ博でのUF情報を参加学生ほかに向けて発信しました。



これら①～③より学生が万博への理解を深めるとともに、学生のみならず、2025年万博の出展国、団体に向けて各出展でのUFのあり方を考える機会を創出し、2025年大阪・関西万博の成功への貢献につなげる事業となりました。

なお、本事業は2021年度日本万国博覧会記念基金助成事業として、実施にあたり開催資金の一部に公益財団法人関西・大阪21世紀協会からの助成金をいただいています。



期間： 2022年1月27日（森永氏によるオンラインセミナー）
2022年2月15日（日本及びドバイの学生によるオンライン交流会）
参加： ESMOD JAPON 2年次学生 13名／ ESMOD DUBAI 1～3年次学生 20名
協力： ANREALAGE、東レ株式会社、ドバイ万博日本館（経済産業省／JETRO）

Ⅲ. 人材・専門家の育成

1. ユニフォーム資格認定制度とは

ユニフォームは着用者の年齢、体位体型、場合によっては性別、全国規模の制服にあっては地域の気温などに関係なく、同一のデザインを着用します。更には同じものを、ある決められた期間、例えば2～3年継続して着用し、且つ、限られた予算の中で購入します。

また、作業環境による生地選びも大切です。（汚れにくい、燃えにくい、匂いがつかない等）このように企業では様々な着用条件下に適したユニフォームを選び、購入するにあたって「安心して相談できるユニフォームの専門知識を持った人」を求めています。

そこで弊法人では平成10年度より、標記の認定制度を設けスタートしました。ユニフォーム担当者の専門知識レベルを一定の基準で段階的な級別の認定をすることで、より着せる側の信頼を得ることができます。

<目 的>

- ① ユニフォームの専門者がそれぞれの段階でもっている知識・技能の程度を一定の基準で認定することで、ユニフォームの販売担当者の知識がいつそう磨かれること。
- ② ユニフォームの専門者が、一定の基準で専門的な知識と技術的なアドバイスができることで、着せる人（ユニフォームを購入する企業）が安心して自社のユニフォームを選定することができること。

- ③ ユニフォームの専門者を目指す初級者を指導できる中上級者を育成し、業界全体のレベルアップにつなげること。

この認定制度は認定されるレベルごとにスペシャリストレベル（初級）、プロデューサー・ディレクターレベル（中級）、エグゼクティブレベル（上級）に区分し、それぞれ学科講習及び試験によって合格者に資格認定を与えます。以上により、ユニフォームの質的向上を図り、より良いユニフォームの普及活動につながることを目的とした民間資格制度です。

- 本年も昨年に引き続き、ユニフォームを取り巻く技術革新・規則の変化等に合わせ、講習内容をリニューアルし、開催しました。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事務局の講習会では三密を避けるべく定員を設け、席の間隔を確保するとともに手指の消毒や検温などの対策を講じました。

昨年度より開始したオンラインでのWEB講習会を継続し、事務局での講習会と同日時にWEB会議ツールを用いて配信しました。加えて後日、講習会の動画を動画共有サービス Youtube にて公開（受講者への限定公開）しました。コロナ禍のなかでもユニフォームに関する知識が安心して深められるよう取り組み、事務局、WEBあわせて37名が受講しました。

- 本年度の資格認定制度は以下の日程で開催しました。

- ・ 「＜初級＞スペシャリストレベル」

ユニフォームに関する相談に対応できる基礎的専門知識と技術を有する者が取得できる
受講資格：

A) ユニフォームに関わる実務1年以上の者。

B) 企業のユニフォーム購入担当で実務経験1年以上の者。

講習会：7月21日 試験：8月18日、23日

本年度は22名が＜初級＞資格認定を取得し、初級合格者の総数は913名となりました。

- ・ 「＜中級＞プロデューサー・ディレクターレベル」

ユニフォームの調査から納品までの知識に精通し企業においてはユニフォームエキスパートと認められる者が取得できる

受講資格：

- A) 初級の資格認定を取得した後2年間の実務経験を積んだ者。
- B) 過去7年以上ユニフォームに関連した業務に携わった経験者は初級取得の翌年度以降の受講資格を得ることができる。

講習会：11月10日 試験：12月8日

本年度は15名が<中級>資格認定を取得し、中級合格者の総数は168名となりました。



資格認定講習会

IV. 国内外諸団体との連携

1. 国内諸団体

- ① 展示会、セミナー、研究開発、資料収集等で行政機関・関連団体と連携いたしました。

- 宇宙航空研究開発機構（JAXA）
- 公正取引協会
- 繊維産業流通構造改革推進協議会
- 全日本交通安全協会

その他、各検査センター、高視認性安全服、国内諸団体との連携でユニフォームの普及活動に努めました。

2. 海外諸団体

- タイ王国との交流

前年度よりタイ王国のコングロマリット集団・サハグループからユニフォームの歴史から技術までのノウハウを学びたいとの要請を受けています。

前年度好評だったWEBセミナーに続き今年度はリアル開催を検討していましたが、新型コロナウイルス感染症が収束しないため見送りました。

【目的】タイ王国での高品質ユニフォームの啓蒙普及/タイ王国ユニフォーム事業の振興/両国（サハグループ/NUC 会員企業）の技術交流、親睦、ビジネス展開

(2) ユニフォームに関する調査、資料収集、研究開発事業

I. ユニフォームに関連する調査、資料収集

1. 調査 テーマ「ユニフォームにおける SDGs への意識」

今年度はユニフォームを使用している企業や官公庁、団体の SDGs に対する取り組みの現状や意識の調査を実施し、報告書としてまとめました。

【目的】

ユニフォームに関わる事業者が本調査結果をもとにユニフォーム分野での SDGs の達成に向けた取り組みの現状や今後の方針を確認し、

新たなユニフォームの企画設計、及びその生産体制、また廃棄やリサイクルのシステムなどの多岐にわたる項目における研究開発とその普及に役立てることを目指す。同時に、社員・職員にユニフォーム類を支給する企業・官公庁・団体等が、

同じ業種や、同様の服種を着用している他社がどのような意識を持っているかを把握することによって、より有効に自社でのユニフォーム分野での SDGs に向けた取り組みの推進に活用できることを目指しています。

その結果、多くのユニフォームが SDGs の達成に貢献できるものとなることを目的としています。

【調査対象】「ユニフォームを着用して業務にあたる社員・職員が在籍」する「企業・官公庁・団体のユニフォーム担当者」を調査対象とした。

【調査期間】

令和 3 年 12 月 22 日(木)～令和 4 年 2 月 4 日(金)

【アンケート回収数・回収率】 合計 159 件・31.8%(159/500 件)

報告書の構成：

調査結果の要旨

1) 調査概要

- 1 調査目的
- 2 調査対象



調査報告書

- 3 調査方法
- 4 調査期間
- 5 アンケート回収数
- 6 アンケート回数率

2) 回答社である企業・官公庁・団体の属性

- 1 業種
- 2 従業員数
- 3 着用しているユニフォームの服種
- 4 ユニフォームの着用人数
- 5 ユニフォームを着用している社員・職員の男女比率
- 6 ユニフォームを着用している社員・職員の顧客接点

3) ユニフォームにおける SDGs への取り組み

- 1 「SDGs の達成に貢献するための取り組み」推進の有無
- 2 ユニフォームに関連する具体的な取り組み内容
- 3 取り組みを実施しはじめた時期
- 4 今後取り組みを重視したい／新たに取り組みたい内容
- 5 取り組みの公表・PR 方法

4) ユニフォームの廃棄とリサイクル

- 1 使用しなくなったユニフォームの廃棄／リサイクル方法
- 2 今後採用したい、ユニフォームの廃棄／リサイクル方法

5) ユニフォームにおける SDGs への意識

- 1 ユニフォーム製品や材料に関連する環境／サステナビリティ認証などの認知度
- 2 SDGs への取り組みに対するコスト意識
- 3 ユニフォームにおける SDGs への取り組みについての意見

6) 結び

7) データ・資料篇

2. 資料収集

歴史的・文化的な価値のあるユニフォーム資料の保存から、ユニフォームに関連する各種最新技術・先端素材の資料収集まで幅広い活動を行いました。

収集した資料は、ホームページや、各種展示会、博物館、資料館などでの展示を通じ、広く一般に公開しています。事務局内の資料室は歴史資料を中心にデジタル化し、必要に応じてユニフォーム関連情報の提供や、保存資料の貸し出し等を行っています。

3. 受託調査

受託調査では、大手物流企業からの要請により、集配作業員がユニフォームでの猛暑対策として用いる冷却ウェア等の試行および着用による効果検証の調査を行いました。

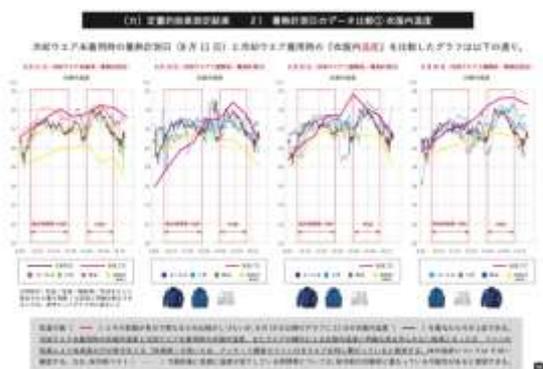
この調査は集配作業員へのアンケートによる定性的調査に加え、ウェアラブルデバイス（センサー）を用いた「衣服内温度・湿度・体温・心拍数」などのデータ収集による定量的調査を組み合わせ、ハイブリッド形式で実施しました。

定量的調査では、被験者となる作業員が素肌に身に着けたウェアラブルデバイスから収集したデータをスマートフォンを通じて送信、調査者がリアルタイムでモニタリングします。これにより、真夏の気候のもと、また集配作業の実務下において、本来の業務を中断することのないデータ収集が可能となりました。



【冷却ウェア等に係る実証実験作業 調査報告書内容】

- (ア) 冷却ウェア等の現状及び動向（電動ファン付きウェア等の市場と採用例）
- (イ) 提案製品情報
- (ウ) 実証実験内容
- (エ) アンケート及び定量的効果測定項目
- (オ) アンケート結果
- (カ) 定量的効果測定結果
- (キ) 実証実験を踏まえた今後の展望



II. 研究開発

1. ユニフォームの研究・開発

より安全で機能的なユニフォームを作ることを目的に、幅広い業種・職種に適合したユニフォームの研究開発を行いました。ユニフォーム着用者の体型の調査研究や、労働科学・人間工学的側面から体の仕組みと運動に適合したユニフォームの研究開発に取り組みました。

■公益事業の基本的「ユニフォーム調査・研究・開発事業」要件

< 1 > 対象：不特定多数を対象とする。

< 2 > 内容：意識調査、着用現場調査、素材・機能研究開発、仕様書開発、サイズ研究等が含まれる事。

< 3 > 調査・研究・開発テーマが次に該当すること

- ①素材や形状・構造に関する、新しい技術の開発
- ②安全性の確保・事故防止・災害の防止につながる
- ③犯罪の防止・ユニフォームの悪用防止につながる
- ④女性の就労・女性活躍につながる
- ⑤環境保全・環境保護につながる
- ⑥妊産婦・障害者等が職場で着用する「ユニフォームに問題を抱える人」の為の改善改良

< 4 > 報告書の公表：

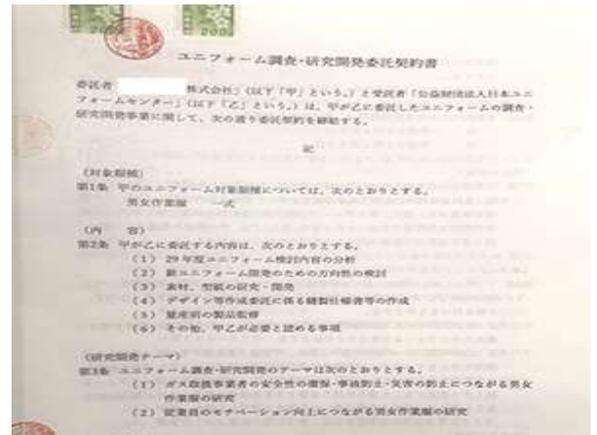
- ① 事務局資料室にて、調査研究開発報告書を報告レポートにて一般公開する。
- ② 弊法人ホームページ内、業務報告ページ及び、調査・資料収集研究開発事業ページで年度別に報告書内容の要点を公表する



(資料室情報開示棚)

< 5 > 経済的利益：利益を得ることを目的としない。

< 6 > 受託調査研究の場合は、調査研究開発受託契約書に「〇〇〇〇ユニフォームの調査・研究・開発」契約書と明記する。



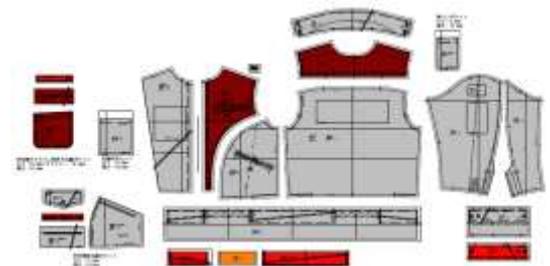
調査研究開発事業は

①自主研究開発と②受託研究開発があります。

①自主研究開発

仕様書の研究開発

ユニフォームを着る人々は、その職場環境・作業動作に適合したユニフォームの着心地・安全性・機能性・強度などを求めていることに鑑み、弊法人の調査・研究・資料の収集等の成果と専門性を生かしたユニフォームの仕様書を作成いたしました。



パターン開発

■環境面から、リサイクル素材・バイオPET 使用素材の採用

■安全面／快適面から、制電作業服、難燃作業服、新規規格フルハーネス安全帯対応作業服(2019年2月労働安全衛生規則改定)、電動ファン付ウェアなどの暑熱環境対応作業服や冷却・保冷ベスト、防水雨衣、防寒作業服

■事故防止のための反射材付安全服など

■ユニフォームの効率管理、不正流出防止を目的としたICチップ導入

■新機能袖パターンの研究開発

—など、時代に則した仕様書の研究開発を行いました。

■アパレル3D着用シミュレーションシステムの活用

また、上記の仕様書作成に至るまでのユニフォーム研究開発過程においては、今年度よりアパレル3D着用シミュレーションシステム（3DCG技術）による取り組みを開始しました。（後述の②受託研究開発に活用事例を記載）

これにより研究開発及びその検討過程の合理化を図るとともに、必要最小限の試作品作成を実現し省資源化を図り、SDGs への貢献にもつながる事業としました。



E S H (Environment・Safety・Health) 環境・安全・健康に関する研究開発

社会の新たな要請である、環境・安全・健康をテーマとし働く人の福祉向上も目標に、E S Hに関する課題を解決するための研究開発に取り組みました。

新型コロナウイルス感染症対策研究開発

■ランニングマスク

スポーツや労働による運動中の呼吸を妨げずに飛沫感染を防止するマスク（RUNNINGMASK＝鼻部または口腔部、その両方などにベンチレーション機能を持たせた優れたマスク）の配布用サンプルを生産し、啓蒙普及に努めました。 ※2020年度 NUC 専門委員 嗣永龍彦氏と共同開発企画



ランニングマスクの仕様



東海大学での機能試験

■ユニフォームマスク

コロナ禍によりマスクを着用することが常態化しました。

ユニフォームスタイルとの一体感を持たせたデザインマスクを着用することで、働く人の感染症拡大対策を促進するとともに、ユニフォームの3要素（象徴性・審美性・機能性）をより充実させるための普及活動を行いました。



■高視認性安全服

高視認性安全服普及委員会（弊法人と以下3団体で構成：公益社団法人日本用品協会/一般社団法人日本防護服協議会/一般社団法人日本高視認性安全服研究所）として、労働災害防止に役立つ高視認性安全服の普及活動を行っています。



■洗濯機で洗える制帽の研究開発・・・警察官や駅員などで見

られる従来の女性制帽(所謂ハイバック型制帽)は汗や雨に弱く、水分を含むことで型崩れなど劣化が生じるため、洗濯することができず、着用後のケアは布で汚れをふき取り、除菌スプレーを吹き付けることしかできませんでした。



着用者の衛生面を向上させるため、弊法人では洗濯できる女性制帽「ウォッシュャブルシャポー」を研究開発することで、JR東日本ほか多くの運輸会社で採用されてきた実績があります。現在は小規模ユーザーへの普及も考慮し、1個からでも購入可能としています。

今年度はその女性制帽の更なる啓蒙普及と共に、男性が着帽する機会が多い「官帽型」での研究開発を充実させ、官公庁での「洗濯機で洗える官帽」の採用を推進することが出来ました。



②受託研究開発

■危険を伴う環境で着用するユニフォーム（電力会社作業服）

【現場での労災事故防止】

熱中症防止のため、従来の制電難燃性作業上衣を電動ファン付ウェアにすることで、盛夏の時期でも涼しく格段に快適に活動できる作業上衣を開発。

■職員が災害時等に着用する防災対策用ユニフォーム（地方自治体）

【労災事故防止】

携帯品の落下防止。高所、狭所作業時などの引っかかり防止などに適した作業服。着脱しやすい安全靴の採用。

【快適性の改善】

通気性に配慮した素材(夏用シャツ)により快適性の向上を図る。

防風性・保温性の高い素材（防寒衣）

【機能性の改善】

ゆとりを持たせたシルエットと従来よりも高いストレッチ性素材の導入で動きやすさを向上した。

カーゴポケット採用等ポケットの収納性を向上した。

降りたための帽子とし、作業服本体に収納できる仕様とした。

【女性就労・活躍推進】

男性と同様のデザイン・仕様を求める女性職員の意見を集約した作業服の開発。

【環境保全・環境保護素材対応】

バイオ PET 使用素材の採用。

■職員が通常業務等に着用する作業服（官庁 1）

【労災事故防止】

難燃性素材の採用、携帯品の落下防止。高所、狭所作業時などの引っかかり防止などに適した作業服。

【快適性の改善】

通気性に配慮した素材(夏用上衣・夏用ズボン)により快適性の向上を図る。

【機能性の改善】

ゆとりを持たせたシルエットと機能袖、ストレッチ性素材の導入で動きやすさを向上した。
カーゴポケットを採用し、ポケットの収納性を向上した。

【女性就労・活躍推進】

男性と同様のデザイン・仕様を求める女性職員の意見を集約した作業服の開発。

【環境保全・環境保護素材対応】

バイオ PET 使用素材の採用。

■職員が通常業務等に着用する作業服（官庁 2）

(アパレル 3D 着用シミュレーションシステムを活用した研究開発)

【労災事故防止】

ファスナー付きポケットによる携帯品の落下防止。墜落制止用器具の着用時にも使用に支障のないポケット配置。

【快適性の改善】

通気性に配慮した素材(夏用上衣・夏用ズボン)、メッシュ素材を使用したベンチレーションにより快適性の向上を図る。

【機能性の改善】

機能袖、ストレッチ性素材の導入で動きやすさを向上した。
ズボンのサイドポケットを採用し、ポケットの収納性を向上した。

【女性就労・活躍推進】

より着用者に合うサイズ展開の検討、女性職員の意見を反映した作業服の開発。

【環境保全・環境保護素材対応】

バイオ PET・再生 PET ボトルリサイクル繊維の採用。

■職員が通常業務等に着用する制服、作業服（官庁 3）

（アパレル3D着用シミュレーションシステムを活用した研究開発）

【労災事故防止】

フラップ付きポケット、ファスナー付きポケットによる携帯品の落下防止。（作業服）

【快適性の改善】

通気性に配慮した素材（夏用上衣・夏用ズボン）により快適性の向上を図る。（制服、作業服）

【機能性の改善】

ストレッチ性素材の導入で動きやすさを向上した。（制服、作業服）

【女性就労・活躍推進】

着用者の体型に合うサイズ展開。（制服、作業服）

女性職員の意見を反映した作業服の開発。

【環境保全・環境保護素材対応】

バイオ PET・再生 PET ボトルリサイクル繊維の採用。

※上記には、昨年度からの二年度に亘る調査研究開発委託事業や、現在進行中の調査研究開発も含まれています

III. 基礎研究助成

1. 基礎研究助成の目的

ユニフォームに関わる諸研究の助成を行うことにより、働きやすく・快適なユニフォーム作りの推進と研究活動の活性化を図り国民の厚生福祉に寄与することを目的としています。

今年度は引き続き随時募集を行い、公募テーマは世の中の流れやニーズに沿った内容となるよう、常に見直しを行っています。

2. 令和3年度の公募テーマ及び選考について

指定募集テーマ

- A) 人工知能（AI）技術を用いた新しいユニフォームに関する研究
- B) 非接触型技術などの新しい身体測定に関する研究
- C) ユニフォームの本人認証・物流管理、効率化の為にRFIDタグ活用に関する研究
- D) 防災・セキュリティに関連するユニフォームの研究
- E) 高視認性安全服、熱中症対策ユニフォームに関わる研究

- F) 職場における女性活躍促進などに関するユニフォームの調査研究
- G) ユニフォームの国内縫製の実態調査
- H) ユニフォーム各分野の市場調査研究
- I) 諸外国におけるユニフォームの調査

【令和3年度公募助成】

募集期間：随時

応募件数：1件

採択件数：1件

助成対象：武蔵野美術大学 教授 北 徹朗 様

「ゴルフ場キャディのユニフォームの実態と業務従事時の衣服内温湿度」

助成期間：1年（令和3年7月～令和4年6月末日）

助成金額：6万8000円

研究概要：

2019年5月26日に北海道で観測史上最高の39.5度を記録し、同日、道内ゴルフ場で36歳の男性が熱中症の症状で救急搬送後死亡した。この男性はゴルフ場に頻繁に訪れていたが、経験したことの無い暑熱環境下でのプレー中に死亡した。

このように、今後も、従来は考え難かった地域や季節、場面でも熱中症が発生する懸念がますます強くなっていると思われる。例えば、2019年にファン付ウェア市場が急成長し市場規模は100億円に達すると推計されたが、ゴルフ場従事者（特にキャディ）のための暑熱対策においても、これまでにない発想や観点、アイデアが求められている。しかしながら、ゴルフ産業において、客と一緒に炎天下を随伴するキャディのユニホームに関する調査や研究は皆無である。

キャディは真夏でも下図の様なユニフォームを着用していることが一般的である。女性が多い業種のため「日よけ」は考慮されているが機能的な面での課題が多い。

本研究では、キャディが随伴する国内のゴルフ場にアンケート調査を行い、着衣の実態を調査する。具体的には、素材、デザイン、労働衛生環境配慮の有無など。また、首都圏のゴルフ場に協力を要請し、キャディ業務従事中の着衣内温湿度変化についてデータを収集する。先行研究ではプレーヤーの帽子内温湿度データを収集しているが、そこではグリーン上で帽子内温湿度が急上昇することが明らかになっている。キャディ業務従事中に着衣内環境がどのように変化しているかについての基礎データを得ることで、労働環境改善に貢献できる可能性がある。



結果：報告書の最終提出は令和4年度6月末日予定で進行中

(3) ユニフォームに関する診断、相談、助言事業

I. 診断・相談・助言

ユニフォームに関する諸問題をかかえる着用者、団体、学校など「ユニフォームを着る側、着せる側」、並びにアパレル、商社、素材メーカーなど「ユニフォームを作る立場」からの相談に対し、面談、電話、メール等により専門的知識を有する技術者・専門委員・理事などが助言活動を行いました。

今年度はコロナ禍によりユニフォーム事業者が訪問営業できにくい環境下にあることから、以前よりも弊法人への問い合わせも多く寄せられました。

具体的には、ユニフォームの諸問題点（色彩・素材・サイズ・縫製・価格・強度等）を機能性、象徴性、審美性の面から評価・分析し、総合的な診断・相談・助言活動に取り組みました。

<ホームページ等からの相談問合せ例>

- ・ユニフォームに関するデータ、調査資料、研究報告書等の提供・・・14件
- ・ユニフォーム専門資格認定制度について・・・2件
- ・ユニフォームの改善についての相談・・・11件
- ・入会希望・会員制度について・・・1件
- ・調査取材要望・・・6件
- ・その他・・・12件

II. 監修・指導

ユニフォーム生産の工程段階毎に、サイズ見本の監修、先上げ見本の監修、工場指導監修、最終監修を行い、均一で適正なユニフォームに仕上がるよう指導いたしました。

監修指導は弊法人の技術専門局員が対応し、監修業務は、弊法人への持ち込み監修を行う場合の持ち込み監修と、局員を工場等生産現場に派遣し監修指導を実施する監修があり、仕様書に適合したユ

ニフォーム生産につながるために実施しています。

工場等への生産現場への立ち入りについては、今年度においても新型コロナウイルス感染症の影響を受けて実施を見送ることとし、タブレット端末を活用して国内の縫製工場と WEB 会議ツールを通じた監修を実施いたしました。

【監修業務】



量産仕様書作成



監修



監修書の発行

(収益事業)

(4) ユニフォームに関する知的財産権の提供事業

弊法人で研究開発した意匠の証としてラベルを提供しました。ラベルの名称は、環境を考慮したユニフォームにつける「エコロジーウエア」、安全な機能性を有する「NUC・SW」（セキュリティウエア）等があり、その名称と図案を通じ、ユニフォームにおける地球環境への配慮、ペットボトルリサイクルやカーボンオフセット、安全安心セキュリティ、ユニフォームの安全管理の等の普及推進を図りました。

(5) ユニフォームに関する物品の斡旋事業

オリジナルユニフォーム及びカタログユニフォームの製品斡旋等を行う事業。
一般のユニフォームメーカーではデザイン開発・コスト・スケジュールなどの面で対応が難しいと思われる少人数業態事業所を対象に、機能性に優れたオリジナルユニフォームの斡旋を行ないました。また、クラウドファンディングを活用したスポーツ競技団体への応援マスクプロジェクトを実施しました。



(6) ユニフォームに関する特定団体・企業などへのデザインの提供・診断・監修

特定団体・企業等へのデザインの作成・イラストの作成・デザイン説明の作成または、診断・監修業務等。

■収益事業の「ユニフォームのデザイン提案」の条件（チェックポイント）

公益事業以外のユニフォームデザイン提案に関する委託事業
(調査・研究・開発を伴わない、デザイン作成・型紙作成・仕様書作成)

主な実績

日本郵便／東京都医師会／税関イベント向け子供服／名鉄百貨店／ATグループ／トッパン・フォームズ

<管理部門>

会 議

理事会、評議員会を次の通り開催しました。

I. 理事会

開催月日	開催場所	議 題	
第 59 回 3. 5. 20 (書面表決 理事会)	—	第 1 号議案 公益財団法人 第 10 期事業報告及び 決算について 第 2 号議案 令和 3 年度 役員報酬の件 第 3 号議案 「定時評議員会の日時及び場所並びに 目的である事項等」の件 第 4 号議案 評議員会に提出する理事交代の 候補者推薦について 第 5 号議案 評議員の推薦について 第 6 号議案 会員について 第 7 号議案 事務局報告	承認 承認 決議 承認 承認 承認(入会) 報告
第 60 回 3. 7. 12 (書面表決 理事会)	—	第 1 号議案 経理報告 第 2 号議案 会員について 第 3 号議案 事務局報告	報告 承認(入会・昇格) 報告(退会) 報告
第 61 回 3. 9. 21	NUC 事務局	第 1 号議案 経理報告 第 2 号議案 会員について 第 3 号議案 事務局報告	報告 承認(入会)・ 報告(変更・休会・退会) 報告
第 62 回 3. 11. 16	NUC 事務局	第 1 号議案 経理報告 第 2 号議案 会員について 第 3 号議案 事務局報告 第 4 号議案 監事からの半期監査報告	報告 承認(入会) 報告 報告
第 63 回 4. 1. 25	NUC 事務局	第 1 号議案 経理報告 第 2 号議案 会員について 第 3 号議案 令和 4 年度 事業計画及び 収支予算書 編成大綱(案) 第 4 号議案 事務局報告	報告 報告 承認 報告

第 64 回 4. 3. 15	NUC 事務局	第 1 号議案	経理報告	報告
		第 2 号議案	令和 4 年度事業計画及び収支予算書の承認	承認
		第 3 号議案	次期理事長について	報告
		第 4 号議案	会員について	報告
		第 5 号議案	監事監査計画について	報告
		第 6 号議案	事務局報告	報告

II. 評議員会

開催月日	開催場所	議 題		
第 11 回 3. 6. 4 (書面表決 評議員会)	—	第 1 号議案	公益財団法人 第 10 期 事業報告について	報 告
		第 2 号議案	公益財団法人 第 10 期 決算について	承 認
		第 3 号議案	定款変更について	決 議
		第 4 号議案	役員(理事)の選任の件	決 議
		第 5 号議案	評議員の推薦について	承 認
		第 6 号議案	令和 3 年度 役員報酬の件	決 議
		第 7 号議案	事業計画及び予算について	報 告

III. 評議員選定委員会

開催月日	開催場所	議 題		
第 10 回 3. 6. 22	NUC 事務局	第 1 号議案	議長選出について	
		第 2 号議案	評議員選任の件	決 議

会 員

特別会員会社名

(株)そごう・西武/東レ(株)/日本毛織(株)/帝人フロンティア(株)/(株)チ ク マ/ミドリ安全(株)

区 分	令和 3 年度			
	R3/ 4. 1	増	減	R4/ 3. 31
特別会員	6	0	0	6
特別研究賛助会員	1	0	0	1
研究賛助会員	3	0	0	3
賛助会員	1 7	1	1	1 7
普通会員	1 6 3	7	6	1 6 4
計	1 9 0	8	7	1 9 1

役員等

I. 役員構成

(令和4年3月31日現在)

区分	総数	内 訳	
		一 般	会員派遣
理事	22	10(内常勤2名)	12
監事	3	3	0
評議員	26	7	19

1. 理事(役員)

(令和4年3月31日現在)

役職名	氏名	略歴
理事長	藤原 典	(公財)日本ユニフォームセンター
常務理事	長野 隆貴	(公財)日本ユニフォームセンター
理事	吉田 弘美	服飾デザイナー
〃	小西 正紀	服飾デザイナー
〃	間壁 治子	共立女子大学 名誉教授 医学博士
〃	石津 祥介	メンズデザイナー
〃	甲賀 真理子	服飾デザイナー
〃	石田 欧子	帽子デザイナー
〃	嶋崎 隆一郎	服飾デザイナー
〃	藤井 基弘	(株)そごう・西武
〃	三部 英明	(株)そごう・西武
〃	梅田 輝紀	東レ(株)
〃	工藤 良祐	東レ(株)
〃	細田 直樹	日本毛織(株)
〃	小田切 晋平	日本毛織(株)
〃	杉本 伸介	帝人フロンティア(株)
〃	安田 哲也	帝人フロンティア(株)
〃	芳賀 博一	(株)チクマ
〃	味澤 英樹	(株)チクマ
〃	村上文彦	ミドリ安全(株)
〃	田中信秀	ミドリ安全(株)

〃	谷山 洪栄	(公財)日本ユニフォームセンター
---	-------	------------------

2. 監 事 (役員)

(令和4年3月31日現在)

氏 名	略 歴
北尾 哲郎	弁護士
山田 務	筑波大学 名誉教授
長須賀 政夫	(公財)日本ユニフォームセンター

3. 顧 問

(令和4年3月31日現在)

氏 名	略 歴
西田 武生	服飾デザイナー

4. 評 議 員 (役員)

(令和4年3月31日現在)

氏 名	略 歴	氏 名	略 歴
岡田 正俊	(株)そごう・西武	今泉 善徳	イズミ産業(株)
佐々木 康次	東レ(株)	蓮見 隆哉	エチカスパークライト(株)
川村 善朗	日本毛織(株)	伊藤 晴美	(株)たまき
門脇 秀樹	帝人フロンティア(株)	菅野 孝男	牧村(株)
堀松 涉	(株)チクマ	西垣 武志	辰野(株)
宗形 浩一	ミドリ安全(株)	伊藤 和枝	服飾デザイナー
笠井 俊宏	帝国繊維(株)	池 悦子	ジャーナリスト
森村 正博	(株)ナカヒロ	荒木田 裕子	(公財)日本リベルック委員会
対馬 英人	清原(株)	宮沢 豊	(一財)全日本交通安全協会
松山 宙民	東洋物産(株)	櫛下町 慶子	文化服装学院 副学院長
金井 憲司	(株)三景	酒井 一博	(公財)大原記念労働科学研究所
水本 哲平	(株)マーケテック	橋爪 紳也	大阪府立大学 観光産業戦略 研究所 所長
山下 光児	(株)武蔵富装		
石田 保史	佐藤産業(株)		

5. 専門委員

(令和4年3月31日現在)

氏 名	略 歴	氏 名	略 歴
西山 栄子	ジャーナリスト	小室 しづか	服飾デザイナー

森 伸 之	イラスト・作家	永 澤 陽 一	服飾デザイナー
執 行 雅 臣	メンズファッション評論家	大 矢 寛 朗	服飾デザイナー
大 塚 陽 子	ジャーナリスト	所 昌 平	ジャーナリスト
嗣 永 龍 彦	メンズデザイナー	長 屋 宏 和	服飾デザイナー
広 島 ひとみ	服飾デザイナー	小 篠 ゆ ま	服飾デザイナー
山 口 善 昭	産業組織心理学者	大 澤 かほる	色彩専門家
朝 月 真次郎	服飾デザイナー	岡 研一郎	繊維素材専門家
阿 部 恭 子	服飾デザイナー	真 木 喜久子	服飾デザイナー
前 田 修	服飾デザイナー	長谷川 貞 昌	服飾デザイナー
平 子 礼 子	服飾デザイナー	小 野 原 誠	服飾デザイナー
エ マ 理 永	服飾デザイナー	天 津 憂	服飾デザイナー
金 子 博	服飾デザイナー	元 木 雪 恵	コンサルタント
高 田 祐 子	服飾デザイナー	坂 井 史 治	繊維検査専門家
堀 畑 裕 之	服飾デザイナー	原 由美子	ファッションディレクター
加 藤 徹	服飾デザイナー	河 又 正 和	繊維検査専門家

事業報告の附属明細書

令和3年度（令和3年4月1日～令和4年3月31日）事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

公益財団法人 日本ユニフォームセンター